

令和 3 年度 県立竜ヶ崎第二高等学校自己評価表

目指す学校像	1 社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校 2 確かな学力と豊かな心、健やかな体を育成する学校 3 社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人材が育成される学校 4 望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財が育つ学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ○創立100年を超える長い歴史と伝統を受け継ぎ、落ち着いたある学習環境の中で、生徒は明るく伸び伸びとした学校生活を送っている。大学・短大進学者は 20%と横ばいであるが、数年前から看護学校をはじめとする医療系への進学者が増加傾向にある。また、学校幹旋による就職率は 100%に近い。 ○1年次の国語や数学における習熟度別やTTでの授業展開や、生徒指導における段階的指導の導入により、基礎学力や授業への集中力が向上しつつある。 ○部活動加入率が徐々に向上し入学当初は 50%を超える。しかし、途中で退部するものも少なくない。そのようななかでバスケットボール部を筆頭に運動部・文化部を問わず、実績を残している。 ○商業科・人間文化科においては、資格取得を目標に、各種検定試験合格に向けた熱心な指導が行われている。 ○りゅうがさきフューチャーセンターの設置および活動により、龍ヶ崎市役所・商工会・地元企業等との交流を広げることができた。併せて、参加生徒の積極性が高まり、コミュニケーション力の向上が見られている。 <課題> ○My りゅうプロジェクト(県立高等学校等チャレンジプロジェクト)を生かし、地域社会と連携した教育活動を推進するとともに、学科等の枠を超えた 3 年間の系統的、計画的な探究活動を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員研修と実践に努める ○基礎学力の定着を図る必要がある生徒が多数入学している現状を踏まえながら、習熟度別授業、ICTを活用するなど、きめ細かな授業を行う。 ○ICT環境を生かした教育活動を展開するための研修を実施するなど、ICT機器の活用促進を図る。 ○生徒の第一希望の進路実現に向けた指導の充実を図る。 ○部活動の内容を充実させることで、加入率の向上を図る。 ○面談や定期的なアンケート、保護者との密接な連携等をとおして、生徒理解に努め、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ○昨年の広報状況を分析し、積極的な PR に努めるとともに、学校 HP や学校だより等による広報活動の一層の充実を図る。	確かな学力の育成	① 基礎学力の向上を図る授業の実践と I C T機器の活用促進 ② 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善への取組 ③ 教科等を横断した探究活動を通した課題解決能力の育成	A
	生徒の希望や目標の実現	① 将来を見通した 3 年間の組織的・系統的なキャリア教育体制の構築 ② 資格試験の受験支援や課外活動の充実	B
	社会で活躍するための基礎的な力の育成	① 生活マナーや規範意識の向上と安全能力の育成 ② H R ・生徒会活動への支援や学校行事の充実 ③ 面談や定期的なアンケートの実施と教育相談の充実	B
	社会に開かれた魅力ある学校づくり	① ボランティア活動および地域の活動への積極的参加 ② 近隣中学校や地域等への教育活動の情報発信 ③ 地域と連携した取組推進のための外部機関との連携強化	A
	教職員の働き方改革への取組	① ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善 ② 取組についての生徒、保護者等への周知	A

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの 方針」 (スクール・ ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・ 社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人財 ・ 望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財	B	B	卒業に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・ 生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの幅広い生徒の進路希望の実現	B		教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・ 学校や社会の規律を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに取り組む意欲のある生徒	B		入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国 語	基礎学力の定着に努める。	・ 生徒の実態を把握し、内容を工夫した授業を展開する。	A	B	・ 漢字検定の普通科全員受験 ・ T Tでの授業のよりよい展開方法を研究していく。 ・ 小論文模試について、学校のグランドデザインに応じ見通しを持って国語科が作成、学年と連携を図る。
		・ 漢字、ことわざ等の一般常識分野を学習する時間を継続的に設けるとともに、それぞれの学年に応じて小テスト等を実施し、定着を図る。	A		
	個に応じた指導の充実を図る。	・ 古文、漢文の基礎となる事柄を繰り返し学習させ、定着を図る。	A		
		・ 1 学年全学科で、T T授業および習熟度別授業を展開し、個に応じた指導を行う。	A		
	進路に応じた指導の徹底を図る。	・ 漢字検定の受験者が増えるよう、生徒に働きかける。また、受験者には、課外を通して自己の苦手分野を把握させるとともに、その対策を行い、目標とする級への合格に至るよう支援する。	C		
		・ 平日および長期休業中の進学課外参加を生徒に呼びかけ、積極的に行う。	B		
地 歴	基礎学力の向上を図る。	・ 生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。	A	B	・ ICT 機器の使用を継続する。 ・ 基本的な知識を習得し、かつ、知識を活用した学びの機会の設定を図る。
		・ 資料集やワークシートを使用し、身近な教材を取り入れることによって理解しやすい授業を展開する。	A		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を目指す。	・ 主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。	B		
		・ I C T機器を活用し、ビデオや画像などビジュアルな手法を授業に取り入れ、考え気付かせる授業を展開する。	B		
	個に応じた進路実現を考えた授業展開を目指す。	・ 一般常識の見識を高め、大学受験から就職試験まで対応できる力を身につける。	B		

別紙様式 2 (高)

公 民	基礎学力の向上を図る。	・生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。	A	B	
		・インターネットやワークシートを活用し、身近な教材を取り入れることによって理解しやすい授業を展開する。	B		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を目指す。	・主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。	B		
		・新聞などを活用するとともに、I C T機器を活用しビジュアル教材を授業に取り入れ、考え気付かせる授業を多くするなどの工夫を行う。	A		
	政治的教養を高めるための授業展開を目指す。	・新聞・ニュースなどを活用することで、政治的教養を高められる授業を展開する。	A		
数 学	数学的なものの見方を身につける。	・I C T機器の活用等で授業を工夫し、魅力ある教科指導に努める。	B	B	・ICT を活用し、双方向の授業ができないか研究を進める。
		・理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。	B		
	基礎的な知識や学力の定着を図る。	・教科書に限らずプリントや問題集を活用し、十分な演習を行う。	A		
		・課外や数学検定に積極的に取り組ませる。	B		
	進路実現に必要な指導を行う。	・生徒一人ひとりの進路希望に対し、必要に応じて個別指導を行う。	B		
理 科	基礎学力の向上を図る。	・教科書だけでなくプリント等を活用し、生徒達の理解度を確認しながら授業を展開する。	B	A	・生徒の主体的な実験を行い、興味・関心を育てていきたい。 ・I C Tを活用し、生徒の意見や考えが発信する機会を多く設けた授業を工夫していきたい。
		・ノートやレポートの提出を徹底させる。	B		
		・演習や小テストを実施し、理解を深める。	A		
	関心・意欲を高める指導法の工夫改善に努める。	・生徒実験、 演示実験を通して理解と興味関心を高める。また、 実験を通して協調性を育てる。	A		
		・グループ活動を通して対話のある授業を展開する。	A		
		・I C T機器を用いて、動画などを見せ、自ら調べることを通して、科学的な興味を高める。	A		
	進路実現に向けた指導を目指す。	・基本的な問題を通して一般常識の見識力を高める。	B		
保健体育	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを理解できるようにする。	・各種目のスキルテストや体力テストを通して、個人の習熟度や運動能力の成長を確認させる。	A	B	・全学年で体力テストを実施でき、次年度へつなげることができた。 ・ICT 機器を利用し運動技能の向上や主体的に学習に取り組む態度を養いたい。
		・主体的かつ意欲的にスポーツに取り組む姿勢を育てる。	B		
	公正、協力、責任等の態度を育て、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	・生活習慣病の予防と運動には大きな関係があることを理解させる。	B		
		・いろいろな種目に取り組みせ、生涯スポーツを見つけさせる。	B		
		・時間やルールを守らせ、自ら進んで活動させる。	A		
	生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	・健康の考え方や保持、増進について理解させる。	A		
		・適切な食事、運動、休養及び睡眠などが、健康的な生活習慣に必要なであることを理解させる。	B		

別紙様式 2 (高)

芸 術	音楽に関する基礎知識や技能の定着を図る。	・ 単元ごとに小テストや実技テストを行い、定着に努める。	A	B	・ 少しずつ、電子黒板などを利用した学習を取り入れることができたが、さらに研究し、タブレットの有効活用をしていきたい。 ・ 練習時間を十分に確保できず、発表の場が少なくなってしまう。
		・ 評価の基準を明確にし、目標を持って積極的に取り組む環境を作る。	A		
	個の能力に応じた指導をする。	・ 能力に応じて課題を選択できるよう工夫をする。	A		
		・ 自分の課題だけでなく学び合いの場を大切にし、体験をとおしてお互いに知識・技能を工夫する。	A		
	生徒の主体的な活動を促す。	・ ペア練習やグループ発表などの機会を多く取り入れる。	B		
		・ 目標と本時の課題を明確にし、生徒が意欲的に活動するとともに成果を実感できるようにする。	A		
	様々な形で自己表現する場を設ける。	・ 段階を踏んで個別・ペア・グループ発表を行い、自信に繋げる。	B		
		・ お互いの演奏に対して根拠を持って批評できるように、表現力を高める工夫をする。	B		
外国語	指導形態や学習形態の工夫を図る。	・ ペア活動やグループ活動、ALT とのチームティーチングなどをとおとして、生徒自身が英語を使用してコミュニケーションを行う機会を提供し、お互いが協力し合う学習環境を整える。	A	B	・ 教員による電子黒板の利用はできたが、生徒が ICT 機器を用いる機会が少なかった。来年度は全 1、2 年生が所持するタブレット端末を用いて、発表やパフォーマンステストを行う。 ・ 授業や ALT との TT でペア活動やグループ活動を積極的に行うことができた。
		・ ICT 機器を用いたパフォーマンステストや発表活動等をとおとして、個の目標に応じた指導を展開する。	C		
	個に応じた指導を展開する。	・ 学力上位層の生徒に対して、積極的に進学課外の受講・英語検定の受験を促し、各生徒の自信に繋げる指導を行う。	A		
		・ 普段の授業からワークシートや発問のレベルを複数段階設けることで、生徒を飽きさせずさらに上のレベルにあがるような動機付けと支援を行う。	B		
家 庭	基礎学力の向上を図る。	・ 生徒の能力に応じた、教材・教具の開発を図る。	A	A	・ 現状にあった取り組み・実習・家庭クラブ活動について研究する。
		・ 基礎的な学習や実技を繰り返し行うことにより、基礎学力の定着を図る。	A		
		・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行う。	A		
		・ TT 授業、外部講師や県のものづくりマイスターを利用することにより、技術の定着を図る。	A		
		・ 様々なコンテストでの上位入賞を目指す。	B		
	資格取得に努める。	・ 生徒が各検定に真剣かつ意欲的に取り組めるよう、丁寧な指導を心がけ、合格率のアップを図る。また、生徒の向上心を培う。	A		
	社会体験学習の充実を図る。 介護実習 保育実習 学校家庭クラブ活動	・ 自ら進んで考え行動する能力と責任感を身につけさせる。	A		
		・ 礼儀や丁寧な言葉遣い、挨拶、マナーを身につけさせる。	A		
		・ 家庭クラブ活動をとおとして、地域社会との連携を図る。	B		
		・ 奉仕活動やエコ活動をとおとして、環境問題に関心を持たせる。	B		

別紙様式 2 (高)

情 報	情報活用能力の育成を図る。	・ 基本的な情報技術と情報を扱う方法を身につけさせる。	A	A	・ 情報モラルを身につける事に重点を置いたが、他人事になってしまう場合もあり、注意深く生徒一人一人に目を配る必要があると感じた。 ・ コンピュータに関する知識不足が目立ち、タブレット端末及びPCに触れる機会を多く設定する必要がある。
		・ 情報に関する法規、情報モラルを身につけさせる。	A		
		・ 情報社会と人間との関わりについて考えさせる。	A		
	情報の科学的理解と技能・表現力の育成を図る。	・ 適切な情報の整理、基礎的・基本的内容の活用と応用を身につけさせる。	B		
		・ 情報及び情報技術を問題の発見と解決に、効果的に活用するための技能を身につけさせる。	B		
		・ コンピュータにおいて、情報が処理される仕組みや表現される方法を理解させる。	B		
		・ 実践的体験型学習により、情報の理解を促す。	A		
商 業	基礎学力の向上を図る。	・ 学び直しを含めた基礎学力の向上をはかり、生徒の能力に合った授業を展開する。	B	B	・ 生徒の興味関心を喚起し、理解を深める指導法のさらなる研究が課題である。 ・ 資格取得が進路活動に結びつくように支援していく。 ・ 「事例探究」学習の導入を検討していく必要がある。
	職業人の育成を図る。	・ キャリア教育として職業人に求められる倫理観、マナーや常識を身につけさせ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけさせる。	B		
		・ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業や実技の学習をとおして、自ら学び協働的に取り組む態度を養う。	B		
	資格取得に努める。	・ 生徒の能力に見合った基礎級の合格率向上に努めるとともに、より高度な上級資格の取得を目標とさせる。	B		
		・ 資格取得により自信を持たせ、生徒の就業意欲を高める。	B		
	教務部	学習意欲の向上を目指す。	・ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の導入を進め、指導方法の更なる改善に努める。		
基礎学力の向上を目指す。		・ 習熟度別授業の展開や動画資料の活用などで、個に応じた指導の充実を図る。	A		
		・ 授業時間の確保に努める。	A		
I C T機器の活用を推進する。		・ 各教室における電子黒板等、I C T機器活用のための環境整備を引き続き図る。	A		
		・ 校内研修等を通じて、クロムブック等のI C T機器を活用した学習指導の機会を増やす。	A		
		・ 個人情報の管理を徹底する。	B		
読書に親しむことで視野を広げ、自ら学ぶ姿勢を育てるとともに、社会で必要とされる教養の基礎を身につけさせる。		・ 書籍や雑誌等のさまざまな情報を収集し、適正な図書の充実に努める。	B		
		・ 掲示物の工夫や「図書館だより」の定期的な発行により、生徒の興味関心を喚起させ、図書館利用を促進する。			

別紙様式 2 (高)

	図書委員・放送委員を活用する	・図書委員には、日常的なカウンター業務及び文化祭や高教研図書部の研修等に進んで参加させ、図書館運営に主体的に取り組ませる。	B		活用する教員が増えた。 ・「図書館だより」の定期的な発行が引き続き課題となった。 ・図書館を学習の場として利用していけるよう、啓発活動を行う。 ・放送委員、図書委員の活動機会が新型コロナウイルスの影響でなくなってしまった。
		・放送委員には、校内放送や文化祭等に積極的に参加させ、明るく活気ある学校作りに寄与させる。			
	図書館及び視聴覚施設の環境整備を図る。	・生徒が興味を持つような選書の工夫と図書の充実に努める。	A		
		・視聴覚設備の整備に努める。	B		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立を図る。	・全職員の協働意識を図り、頭髪及び服装指導の徹底を図る。	B	B	・登下校指導を継続 ・服装及び頭髪指導の徹底 ・授業環境の改善の徹底 ・情報モラルの意識の涵養 ・交通ルール遵守の徹底を図るため、交通講話等を取り入れる ・教育相談係の話し合いの場を定期的に持ち、情報等を共有していく。
		・登校指導等を利用し、あいさつの励行に努める。	A		
		・スマホ、携帯電話の使用モラルの浸透を図る。	B		
		・集中して授業に取り組ませるための授業環境の改善を図る。	B		
	いじめ問題の未然防止に努める。	・定期的なアンケート調査や面談を実施し、実態把握と未然防止に努める。	A		
	保護者との連携強化を図る。	・学年と協力し、問題行動があった場合は保護者に来校を促し、学校での状況、指導を十分理解してもらった上で、効果的な指導を進める。	B		
	交通安全の推進、意識の高揚を図る。	・自転車の交通ルール遵守の徹底を促す。	B		
		・バイク通学者の事故未然防止のため、乗車モラルの向上と交通法規の遵守を図る。	B		
		・下校指導を実施し、坂の安全を確保する。	B		
	教育相談の充実を図る。	・問題を抱えている生徒の実態を把握し、関係職員との情報の共有化を図りながら支援していく。	A		
		・いつでも、ゆったりとした気持ちで相談活動ができるよう相談室の環境整備を行う。	A		
		・カウンセラーによる教職員研修会を企画する。	B		
進路指導部	適切な進路目標の設定支援に努める。 進学学習の充実を図る。	・進路説明会や講演会、適性検査等とおして意識の高揚を図る。	B	B	・引き続き新型コロナの影響を避けながら、各学年とも生徒の適正に応じたガイダンスを適宜行う。 ・進路指導の担任負担を軽減する支援策を考える。 ・面接指導を学校全体で取り
		・的確な各種進路情報を会議資料や三者面談等とおして、職員や生徒・保護者に向け迅速に提供する。	A		
		・課外授業や模擬試験を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	B		
		・小論文や面接指導の充実を図る。	B		
		・手帳やICT機器を活用し、自己管理能力を育み、学習習慣の定着を図るとともに、よりよい自己管理能力のあり方を検討・実施する。	C		

別紙様式 2 (高)

	就職指導の充実を図る。 (キャリア教育の充実)	・就職希望者の保護者への面談 (3年)、インターンシップ (2年)、会社見学を実施する。	B		組むことができたが、継続していくためにも職員のスキルアップも必要である。 ・求人票の PDF 化を定着化させ、更なる情報提供の効率を図る。 ・再度「NOLTY」手帳の使い方を示すために、ガイダンス等を行いたい。
		・就職ガイダンスや模擬試験をとおして就職試験対策の充実を図る。	B		
		・就職希望者が正社員として就職できるよう、学年の先生方とともに計画・指導を行う。	A		
	キャリア・パスポートの活用を図る。	・ホームルーム活動や学校行事・進路行事をとおして得たもの等を生徒が振り返る機会を設け、生徒自身のキャリア形成に活用できるよう促す。	B		
	関係機関との連携に努める。	・大学、短大、専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、的確な情報収集に努める。	A		
保健厚生部	環境美化や衛生管理に対する意識を高め、豊かな心身を育む学習環境の整備を進める。	・清掃用具を整備して能率が高まるよう配慮し、ゴミ分別の徹底や綿埃、枯葉等の散乱防止を心がけさせ環境美化への意識高揚を目指す。	A	B	・コロナウイルスの感染対策に追われる 1 年だった。個人情報を守りつつ、情報を共有することの重要性を感じる。 ・密を回避するため、避難訓練の代わりに LHR で災害時マニュアルの確認を実施した。また、薬物防止教室の代わりに DVD 教材を活用した授業に変更した。 ・心理的な要因での保健室利用者が多く、教育相談体制の充実が必要である。 ・清掃監督での先生の熱心な働きかけが有効だった。
	震災の経験をふまえ、安全確保や危機管理等に関する安全教育を推進する。	・安全衛生委員会と連携し、校内設備環境の安全点検を実施し、安全管理に万全を尽くす。	B		
		・防災避難訓練を実施し、非常時における対応や安全対策に関する知識と意識を高める。	C		
	心身とも健康で、明るく活力のある生活を営む態度の育成を目指し健康教育や学校保健教育の充実を図る。	・学年と連携した保健室運営を展開し、教育相談による心の居場所作りを目指す。	A		
		・学校保健委員会等を通して、生徒の心身の健康状態を把握し、適切な援助と指導を行う。	A		
		・新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症に対し適切な対応を行い、校内での流行を未然に防ぐ対策を講じる。	A		
渉外部	学校、家庭、地域が連携協力できる P T A 組織をめざす。	・ P T A 総会における書面審議の協力と理解に努める。	B	B	・昨年度に引き続き P T A 関連の行事や諸会議がほぼ中止となり、各委員会もほとんど活動できない状況だった。教育環境が正常に戻った時に、2 年間の空白をどう埋めて行くかが今後の課題である。
		・学校行事への保護者の協力について工夫する。	B		
		・各 P T A 組織や他校との連携をとおして、コロナ禍における活動の情報収集に努め、安全な P T A 活動を計画実施する。	B		
		・マナーアップ運動など諸行事への参加協力について、保護者や地域住民との理解を深める。	B		
	各種委員会活動の適正な活動を計画支援する。	・広報紙「P T A だより」を発行する。	B		
		・祭礼巡視や立哨指導を効果的に実施する。	B		
		・有意義な研修旅行について検討を重ねる。	B		

別紙様式 2 (高)

	同窓会との連携を図る。	・同窓会活動へ積極的に協力する。	B		・同窓会も役員会だけを開催して、書面決済による新役員の改選等が行われ承認された。
特別活動部	生徒会活動への支援や生徒会主催の学校行事の充実を図る。	・生徒会本部の定例会を毎週実施し、指導助言をとおして、生徒会役員のリーダーとしての資質の向上を目指す。また、活動内容については昨年度の反省をふまえ、行事の精選や作業の効率化なども検討していく。	A	B	・コロナ禍での学校行事計画と実施時期の検討 ・行事の流れを継承できる体制作り ・学校行事の実施可否に関する判断時期や方法の明確化 ・生徒と教員の意見の差を縮めるための方策 ・部活動の活性化による学校生活の充実
		・文化祭・クラスマッチ・予餞会等の企画内容を生徒自らが検討し責任をもって取り組み、達成感を得られるようにする。	B		
	部活動の活性化を図る。	・新入生に向けて部活動紹介を実施し、全員に部活動入部届を配付して、部活動への興味関心を高める。	A		
		・顧問の適材適所への配置、適切な予算の配分を行うとともに、外部指導者活用などの協力体制を整える。	B		
	ボランティア活動・地域活動への積極的参加を図る。	・ボランティア・地域活動の募集に関して、わかりやすい情報提供を行い、生徒の主体的参加をうながす。	B		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・制服をきちんと着用し、身だしなみを整えさせる。	A	B	・総合的な学習の時間を系統的に実施するための指導計画づくり ・コロナ禍における学年行事の実施についても検討しておくことの必要性
		・言葉遣いに気をつけ、挨拶を的確にできるようにする。	A		
		・時間を守り、規律正しい生活をさせる。	C		
	基礎学力の定着と個に応じた指導の充実を図る。	・毎日の授業に真剣に取り組ませ、学ぶ姿勢を育てる。	C		
		・各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。	C		
	進路目標を設定する。	・自らの志望や適性について意識させ、進路目標を持たせる。	B		
		・情報の提供や面談を通して、進路選択の支援をする。	C		
第 2 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・部活動や生徒会活動、校外活動などへの積極的参加を促す。	C	B	・進路行事がコロナウイルスの影響で実施ができないものがあったが、学年でできることを考え前に進めることができた。 ・課外授業やフォローアップ課外のあり方を探りながら行った。来年度に向け、さらに対策を考えていきたい。
	基礎学力の向上を図る。	・服装・身だしなみを整えさせる。	B		
		・欠席・遅刻・早退を無くし、規律正しい生活をさせる。	C		
		・授業への積極的な取り組みを促す。	A		
	進路指導の充実を図る。	・各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。	A		
		・家庭学習や課外授業を通し、進路実現を意識した学習の取り組みを促す。	A		
		・面談や進路情報の提供をとおし、一人ひとりに合った進路選択を支援する。	A		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・各種進路行事等の有効活用を図る。	B		
		・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促す。	A		
		・いじめの未然防止に努める。	B		

別紙様式 2 (高)

第 3 学年	進路希望の実現を図る。	・面談やガイダンスを通して、自らの志望や適性について自覚させ目標を持たせる。	A	B	・学年担当の教員のほとんどが、本校での進路が初めてだったため、情報共有の重要性を感じた。今後は学年会等での密な情報共有を図っていく必要がある。 ・夏休みの業者による就職セミナーなど、しっかりと聴講できた生徒が多かったが、欠席した生徒が数名いた。今後は、きめ細やかな対応で、多くの生徒が進路に向き合うことができる支援が必要である。
		・面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自らの進路に対して広い視野をもった判断ができるようにさせる。	B		
		・進路指導が円滑に進むように、進路指導部や保護者との連携を密にする。	B		
	基本的生活習慣の定着を図る。	・日常生活を通じて、時間を守ることや挨拶の大切さ、適切な言葉遣いを身につけさせる。	B		
		・服装・身だしなみを整え、最上級生としての行動ができるようにさせる。	B		
		・保護者との連携を大切にし、信頼関係と協力体制の構築に努める。	B		
	基礎学力の向上を図る。	・授業に真剣かつ積極的に取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。	B		
		・家庭学習や課外授業を通して、進路実現を意識した学習の取り組みを実践させる。	C		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促すとともに、下級生の模範となるような態度で臨めるようにさせる。	B		
		・いじめの未然防止に努める。	A		

※ 評価規準 A : 大変良くできた B : 良くできた C : 普通 D : やや不十分 E : 不十分